



経済成長を前提とした資本主義的な都市構造が世界的に揺らぐ中で、人間を中心とした都市のあり方が見直されつつあります。これまで軽視されてきたヒト・モノ・コトを貴重な地域資源と捉え、現代社会や都市構造に応じて活用する姿勢が重要です。私の研究室では、理論研究の基盤を欧州（特にスペインの地方都市）に、実践の場を長野市に置き、マクロとミクロの両輪を連動させた研究と設計を行っています。



准教授 佐倉 弘祐

2015年に千葉大学大学院工学研究科建築・都市科学専攻修了、博士（工学）取得。龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター博士研究員を経て、2016年6月から現職。一級建築士。

>> 私の学問へのきっかけ

幼い頃から知らない都市を訪れることが大好きで、旅先で出会う風景や街並みに強く惹かれてきました。大学生になってからは、自分が訪れたことのある都市や建築物が講義で取り上げられる機会が増え、その背後にあるデザインや設計意図、歴史的文脈を学ぶ中で、建築や都市に対する関心が一層深まりました。ただ眺めていた空間の意味や価値を知ること、都市の見え方が大きく変わったことを今でも鮮明に覚えています。

>> 研究から広がる未来

理論研究にとどまらず、実際に課題を抱える地域に入り込み、住民と協働して建築や工作物を創ることを大切にしています。そうした実践が住民の主体性を引き出し、地域の活性化につながる。そんな未来を思い描きながら活動を行っています。



長野市内で展開する空き庭の有効活用を目的とした実践型プロジェクト「まち畑プロジェクト」のイベント風景。



まち畑プロジェクト第3弾「ヤギのいる庭」の設計提案が全国設計競技「SDレビュー2018年」で入賞！

>> 卒業後の未来像

価値観や働き方が変わる今、大企業への就職だけが理想とは限りません。大切なのは、どんな状況でも柔軟に対応し、自分らしく豊かに生きる力を養うこと。地域と世界を見渡す実践を通じて、その力を育てていきます。

先鋭融合

建築学

研究キーワード

都市空間・地域資源・デザイン・リノベーション・まちづくり

研究シーズ

- 長野市善光寺門前界隈の空き地の有効活用を目的とした、実践型プロジェクト「まち畑プロジェクト」
- 軽井沢の設計事務所「TONO MIRAI ARCHITECTS」と協働の信州土プロジェクト
- アルゼンチンのスラム地区を対象にしたデザインビルドによる環境改善プロジェクト
- スペイン地方都市を対象とした地域資源の再利用手法
- 地中海沿岸都市の灌漑水路と都市構造に関する研究

最近の研究トピックス

2016年から長野市内で展開している、学生主体による地域住民との協働プロジェクトが、2024年度グッドデザイン賞を受賞しました。この取り組みでは、空き家や元空き家に付随する荒廃した庭＝「空き庭」を、コミュニティガーデンとして活用しつつ、地域のニーズに応じた多目的空間「まち畑」へと転用することで、「低未利用地型エリアリノベーション」の可能性を実践的に探っています。



共同研究・外部資金獲得実績

- 株式会社シーンデザイン建築設計事務所との空き庭を利用した学生と地域住民の交流を図る「まち畑プロジェクト」
- 株式会社あづみ野ビルディングと株式会社県設計との地方都市の商業施設再生プロジェクト「AT Project」
- 龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター学外研究員
- 欧州中都市における都市農業の戦略的意味に関する研究（科研費基盤C）
- 南欧諸都市市民ガーデンの包括・系統的研究所および日本諸都市への普及にむけて（科研費若手）
- 近代化にともなう灌漑水路と都市拡張の関係についての地中海都市比較研究（科研費新学術領域）

Architecture Division

Rethinking Cities in the Age of Population Decline through Macro and Micro Perspectives



As capitalist urban structures premised on economic growth falter globally, human-centered approaches to the city are being revalued. Recognizing people, things, and practices as local resources and adapting them to contemporary society is crucial. My laboratory connects macro-level theory, rooted in Europe (especially Spain's regional cities), with micro-level practice in Nagano City through integrated research and design.



Associate Professor Kosuke Sakura

Ph.D. in Engineering,
Chiba University (2015).
Postdoctoral researcher at
Ryukoku University before
assuming current position
in June 2016. Licensed
First-Class Architect.

>> Beginnings of my path to academia

From an early age, I enjoyed exploring unfamiliar cities and was fascinated by the streets and scenery I encountered on my travels. As a university student, I began to learn about the design intentions and historical contexts behind the cities and buildings I had visited, which deepened my interest in architecture. Discovering the meaning and value of spaces I had once only admired greatly changed the way I perceive urban environments.

>> In the Future

My work extends beyond theory to hands-on engagement with communities facing real issues. By collaborating with residents to design and build structures, I aim to encourage local initiative and support community revitalization. This balance of research and practice guides my ongoing activities.

>> After Graduation

In today's changing world, pursuing a career at a large corporation is not the only ideal path. What truly matters is cultivating the ability to adapt flexibly to any situation and to live richly in one's own way. Through practices that connect the local and the global, we aim to foster this capacity.



A scene from the “Machi-Hata Project,” a hands-on initiative in Nagano City that seeks to make effective use of vacant gardens.



The third phase of the Machi-Hata Project, “*Garden with Goats*,” won an award at the national design competition SD Review 2018!